

令和7年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○幼稚部から高等部にか けた系統立てた指導の 実施により、社会で豊 かに生きていくための 基礎学力とコミュニ ケーション力を身につ ける。	①カリキュラムマネジメントを推 進し、学部間の連続した系統性 のある指導を実践して基礎学力 やコミュニケーション力の向上 を図る。 ②一人一台端末を活用して視覚的 支援を充実させるとともに、 専門性を活かした教材の工夫 により、個々の発達段階と課 題に応じた効果的な指導を実 践する。	①個別教育計画の作成と年間指導計画の整理 を行い、ねらいと手立て、評価を明確にし た指導と評価の一体化を図る。 他学部の研究授業や公開授業への参加を通 して、系統的な指導の理解を深める。 ②学校全体でＩＣＴ機器の利活用を積極的に 取り入れ、視覚的支援を行うことでわかり やすい授業を実践する。 ＩＣＴ機器の効果的な利活用に向けた情報の 共有や研修を推進する。	①個別教育計画に基づき、適切な目標設定 と手立てによって効果的な指導につなげ られたか。 研究授業や公開授業への参加を通して、 学部間の系統性を意識するとともに授業 力を向上させることができたか。 ②一人一台端末の活用に係る情報の共有や 研修を実施し、ＩＣＴ機器の効果的な利 活用を図ることができたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	○それぞれの実態を十分 把握し、ニーズに応じ た指導・支援を行うと ともに、集団活動を通 して、協調性や思いや りの心を養い、自己肯 定感を高める。	①幼児・児童・生徒の健康と安全 を守り、一人ひとりのニーズに 応じた教育活動を推進する。 ②校内外の様々な集団活動を通し て互いの良さを認め合い、自 他を大切にすると人権に配慮し た指導を進める。	①学部・学年会及びケース会等を通して情報 共有を図り、支援方法について専門職を含 めたチームで検討し支援を行う。 ②様々な縦割り集団の対話的な活動を通し て、相互理解を図るとともに、協調性や思 いやりを育む支援を行う。	①幼児・児童・生徒の見立てに基づく支援 を行い、健康と安全を守ることができた か。 ②様々な集団活動を通して互いの良さを認 め合い、相互理解を深める教育活動を実 践できたか。 幼児・児童・生徒の協調性や思いやりの 心を養うことができたか。
3	進路指導・支援	○幼児・児童・生徒・保 護者のニーズを受け止 め、職業観を育み、主 体的な進路選択ができ るよう指導・支援す る。	①幼稚部から高等部の各段階にお いて、個の適性やニーズに応じ た課題設定や体験的な学習を通 して、主体的な進路選択につな げる。 ②主体的な進路選択に必要な情報 発信の充実を図り、ニーズに応 じた支援を行う。	①各発達段階において、将来の進路選択につ ながる具体的な視点を設定し、見学会や実 習等の体験的な学習を積極的に推進する。 「卒業生の話を聞く会」を継続して設定 し、生徒自らの将来像をイメージしやすく する。 ②進路だよりや学校ホームページ等を通し て、学習会や見学会等の情報を保護者に発 信し、より良い進路選択につなげる。	①各発達段階において、将来の進路選択につ ながる具体的な視点を設定するととも に、体験的な学習を通して、主体的な進 路選択に向けた意欲を育むことができた か。 ②保護者への情報発信を通して、連携して 進路支援に取り組むことができたか。
4	地域等との協働	○「ともに生きる社会」 の実現に向け、地域に おける支援教育に関す る専門性の向上を図る とともに、地域との協 働による活動を進め る。	①関係機関と連携し、支援の方向 性を共有して教育活動に活かし ていく。 ②センター的機能を発揮し、地域 への情報発信を充実させてニー ズに応じた支援を提供する。 ③交流及び共同学習等、学校外の 人との活動を通してコミュニ ケーション能力を高め、相互理 解を図る。	①病院や福祉機関等との情報交換を計画的に 推進し、支援ニーズの把握や支援策を共有 していく。 ②学校や市町村教育委員会とも連携し、地域 で学ぼう難聴児の支援につながる情報を 発信していく。 ③近隣の学校や地域の団体、施設等との交流 及び共同学習を通して、人と関わる機会を 積極的に設定し相互理解を深める。	①関係機関と情報交換を計画的に行い、 ニーズに応じた支援を推進することがで きたか。 ②センター的機能を発揮し、地域で学ぼう 難聴児の支援につながる情報発信がで きたか。 ③各学部のねらいや個々のニーズに応じた 交流及び共同学習の機会を通してコミュ ニケーション能力を高め、相互理解を深 めることができたか。
5	学校管理 学校運営	○安全で安心できる指 導・管理体制の整備を 進め、学校の危機管理 能力を高める。 ○教員のワークライフバ ランスを推進するた めに、教員の働き方改革 を推進する。	①防災・防犯体制の強化を推進 し、対応マニュアルの整備や実 効性のある訓練を通して、教職 員の危機管理意識の向上を図 る。 ②子どもたちと向き合う時間を確 保するための方策を検討し、教 育活動の質の向上を図る。	①保護者や消防署等、関係機関と連携し、実 際に起こり得る状況を想定した訓練等を実 施する。 ②Teamsの掲示板利用等、会議の効率化や文書 の簡素化、業務の統合や廃止によるスク ラップアンドビルドを推進する。	①関係機関と連携し、実効性のある訓練を して、教職員の危機管理意識の向上を図 ることができたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保するこ とができたか。また、そのことで教育活 動の質の向上が図れたか。